飲料 のことなど
飲み物

長年住んでいる日本でも、「何それ？ 知らなかった」ということが案外あります。先日ドラッグストアの飲み物売り場で、おどろおどろしいデザインのカンを見つけました。「何、これ？」それは「モンスターエナジードリンク」。隣には「レッドブル」等他のエナジードリンクも並んでいました。若者のカフェイン摂取量が増えていると言われていますが、コーヒー、紅茶に限らず、この種のエナジードリンクには相当カフェインが含まれていて、いま問題になっているんですね。以前（今もそうでしょうか）、日本のサラリーマンが好んで栄養ドリンクを飲んでいましたが、今や勉強やインターネットで寝不足の若者はエナジードリンクを愛飲しているのでしょう。

さて、中国はというと、レッドブルは中国語で“红牛”、モンスターについては中国に進出しようとした時、すでに似た商品が“怪兽（怪獣）”として売り出されていたそうです。それで考えた商品名は“鬼爪（モンスターの爪）”、カンのデザインともよく合っているネーミングですね。とにかく、エナジードリンク、よく飲まれているようです。栄養ドリンクで人気のあるのは、国産の“王老吉 Wánglǎojí”。“王老吉”は、漢方ドリンクで、いろいろな薬草エキスが入っており、辛いものや肉を食べ過ぎたとき飲むと効く？そうです。

他の飲み物についてですが、中国の水道水は硬水ということもあり、ミネラルウォーターはどこでもよく売られています。以前、贾樟柯監督の映画《长江哀歌（長江エレジー）》を見た友人が、なぜか登場人物がミネラルウォーターを飲むシーンが印象的だと言っていたのを思い出します。その他にペットボトルでよく売れているのは、“可乐（コーラ）”、“雪碧（スプライト）”、“芬达（ファンタ）”、また中国ならではの“果茶（サンザシ飲料）”、“杏仁露（アーモンド飲料）”、“椰汁（ココナッツジュース）”、“酸梅汤（梅ジュース）”などがありますが、最近はウーロン茶などお茶類も見かけるようになりました。実はこれは日本からの逆輸入では？とも考えられています。もともと冷たいものを飲む習慣のない中国。「お茶を冷たくして飲むなんて考えられない」という考えが基本的にあります。日本でウーロン茶や緑茶のペットボトルが若い人にも好まれていることが影響したのでは、というのです。でも、やはり冷えてません。自販機でもスーパーでもほぼ常温のものが売られています。それから、ミネラルウォーター以外は、栄養ドリンクもエナジードリンクもお茶もほぼすべて日本人にとっては甘い！です。

個人の好みはもちろんありますが、時代によって場所によって、あるいはそれぞれの家に伝わる習慣で、飲み物の嗜好も変わってきますね。

さて今回のお話しには“雪碧 xuěbì”が出てきます。漢字もですが発音も美しくてぴったりです。中国の店員は無愛想な人が多いですが、こんな天然の子がいたら面白いですね！

前几天单位[1]吃饭，一年轻同事要了一瓶大雪碧，
给大家倒[2]了一圈，轮[3]到自己的时候，瓶子空了。
于是该同事晃[4]着雪碧瓶对服务员说：“这个还有吗？”
服务员屁颠屁颠[5]地跑过来，接过瓶子仔仔细细地检查了一遍，
一脸诚恳[6]说：“没有了。”

1 单位 dānwèi：勤め先。職場
2 倒 dào：逆さまにする。注ぐ
3 轮 lún：番が回ってくる
4 晃 huàng：揺り動かす。左右に振る
5 屁颠屁颠 pìdiānpìdiān：媚びへつらう様子
6 诚恳 chéngkěn：心から。誠意をもって

数日前、職場のみんなで食事に行った時、若い同僚がスプライト（2リットルのペットボトル）を注文した。
みんなに注いで回って自分の番になったとき、ペットボトルは空になっていた。
そこで、空のボトルを振りながら、店員に「これまだある？」と聞いた。
店員はぱたぱたと走り寄って来て、ボトルを受け取ってよーく確かめたあと、真面目な顔をして言った。「ないですね！」

＊「百度贴吧」「卡尔加里新生活」など微信サイトから引用いたしました。
ご意見等ございましたら tokyo@toho-shoten.co.jp までご連絡ください。